



## 病院経営の苦悩

札幌市医師会白石区支部  
札幌呼吸器科病院 院長  
**井上 祐二**

白石区支部で会計を担当しております。大学医局からスタートし、地方出張を経て、現在に至っていますが、院長職に就いてからは、医療と経営の二足のわらじを履き、日々苦悩の連続であることを痛感しています。特にこの時代に医師になったことを悔やむような、弱気な気持ちになることもあります。医療にさえ専念すれば良いという時代は終わったのでしょうか。

診療報酬は10年前に比べ10%以上の減少となり、軽症の入院患者は激減し、重症患者が救急搬送され、日々の仕事量が増えて疲労が蓄積しています。年々、疲労度と反比例し、収入が減少しているにもかかわらず、医療器具の購入や消耗品の買いかえ等、退職金支払い等で、とても新たな医療設備の投資に費やすことができない現状であります。現在の日本の経済状況では仕方がないものとあきらめ、十分に休息を取り、体力の温存に努めようとしています。夜間の病院からのコールが続くと、睡眠不足の顔で診療し、患者さんから大丈夫と言われる始末です。昨年度も不休の一年でした。

政府は雇用の創出とっており、医療界にも新たな職種が設けられていますが、小規模病院には必ずしも必要とは言えないものもあると思います。例えば設けても診療報酬に十分反映されず、現在の収入では賅えません。

次に、医師・看護師についてですが、当院も不足の状態が続いており、募集をしても、ほとんどが派遣会社からの紹介で、先日は1ヵ月余りで退職して紹介料全額が戻らず、無駄な出費を余儀なくされました。病院に対してどれほどの負担をかけてしまったのか、全く本人に自覚がないのでしょうか。このような人たちが増えているように思うのは私だけでしょうか。医師会・看護協会を中心に派遣に頼らない方法を考えて欲しいと思います。

高齢化社会を迎え、認知症患者の徘徊、転倒が増加し、センサーマットの設置、寝たきり患者さんに褥瘡予防マット、輸液装置の破損等が増え、重症患者の増加による人工呼吸器の購入、定期点検、補修など多くの医療機器や器具の価格が高く、維持費用を考えるだけでため息が出ます。また、建物の老朽化による建て替えも将来必要となり、私の算術では不可能の答えしか出てきません。このような現状も職員全員が理解しており、各自が工夫や節約をしており、申し訳ない思いがします。私達のような小規模の一般病床では、今回の診療報酬ではマイナス改定となり、受診抑制も加わり、厳しい環境がさらに続くものと覚悟しています。来年の改定にわずかな期待をします。

最後に、北海道医報に私のような者にページを割いていただきありがとうございます。普段の私の気持ちの中にうっ積した思いを吐露しました。少しでも現場の医師の困難な状況を察していただければと思います。医師会会員の皆様もご健勝でありますように、また共に頑張ってください。

追伸：公益法人化を目標に収支報告書が理解しにくくなり、支部会報告の際、苦慮しております。簡単な、重要な部分の報告でもよろしいのではと思います。

## 新規指定医療機関

●平成23年3月1日

医療機関名称	所在地・電話番号	開設者・管理者氏名
さっぽろ駅前クリニック 分院	060-0003 札幌市中央区北3条西4丁目1番地1 日本生命札幌ビル3階 ☎011-555-0020	横山 太範